



産業教育120周年記念

第14回全国産業教育フェア(広島大会)に参加して

広島工業大学高等学校
教諭 寄 義 昭

はじめに

専門高校等の生徒による学習成果発表の祭典である第14回全国産業教育フェアが平成16年10月29日(金)～31日(日)の3日間、広島県(広島市、東広島市、福山市)で開催されました。(主催:文部科学省、広島県、広島県教育委員会、広島市教育委員会、福山市教育委員会、東広島市教育委員会、(財)産業教育振興中央会、全国産業教育振興会連絡協議会、広島県産業教育振興会)

先ずはこのフェアの基本理念及び基本方針を紹介し、続いて、本校の生徒及び教員の参加した時の状況を報告します。

<基本理念>

21世紀の産業・経済界を担う「スペシャリスト」の育成と、産業教育の一層の充実・発展を期して、高等学校における産業教育を幅広く紹介するため「さんフェア広島2004」を開催する。

産業教育120周年を記念し、時代を超えて変わらない価値を再確認するとともに、新しい世紀に即応した価値を探求しながら、広島から全国に今後の産業教育の在り方を情報発信する大会とする。

<基本方針>

1. 日頃の教育活動の中から生徒が自ら創出する産業教育フェア
将来のスペシャリストを目指し、

生徒が技能・技術を学んでいく過程で作成した優秀な作品、ユニークな作品などを、生徒が自らの企画により展示・発表するなど、一人一人の個性や創造性を発揮できるフェアとする。

2. 地域の教育力を幅広く結集する産業教育フェア

学校・家庭・地域の連携による学校教育の活性化が求められる現在、県内の多数のイベントと同時開催することにより、産業界や地域の豊かな教育力を幅広く結集するフェアとする。

3. 密接に展開される校種間連携を生かした産業教育フェア

高校と大学との連携や小中高の連合校長会による校種を超えた教育活動など、密接に展開されている校種間連携を生かし、各学校間の有機的なつながりをもった優れた学習成果を展示・発表することにより相互の融合をすすめるフェアとする。

4. 幅広い人々との交流を深める産業教育フェア

地域・分野の枠を超えて、地域の方々や企業・団体の関係者、小・中学生、高校生、盲・ろう・養護学校の児童・生徒、教員、保護者等に幅広く参加を呼びかけ、展示・発表や技能・技術の体験とおして相互の交流や理解を深めるフェアとする。

ポスターの部・イメージキャラクターの部で本校生徒受賞

平成15年に、大会に先駆けて、ポスター及びイメージキャラクターの募集が行われました。当時、本校の電気部3年の渡邊亨君(現広島工業大学工学部知能機械工学科2年)が応募し、その作品が佳作に選ばれました(図1、図2)。この作品が大会パンフレットにも掲載され、今回のフェアにおいて、広島県教育委員会主催の表彰式が行われました。



佳作作品
広島工業大学高等学校
電気部3年
渡邊 亨

図1 ポスターの部



図2 イメージキャラクターの部

全国高等学校ロボット競技大会

このフェアの1イベントとして、「全国高等学校ロボット競技大会」が10月

31日(日)、福山市で開催されました(写真1)。残念ながら、本校の電気部は広島県大会で敗れ、チームとしては出場できませんでしたが、私は審判員として、この競技大会に参加しました(写真2)。



写真2 黄色のジャンパーが審判(手前:主審、後方:副審)

この大会は毎年、その年に競技を主催する県がルールを決め、コートも製作します。そのため、毎年全く異なった、地域の特色を生かしたルールで行われています。

今回の担当は広島県福山工業高等学校で、「平和の架け橋～世界へ発信しよう 平和のメッセージ～」というのがテーマでした。審判は県内の工業高校、工業科、総合学科の教員が行います。私も審判員として、今回限りのルールを必死で覚え、場面に応じて、手際よく対処していかねばなりません。まさに、手作りのロボット競技大会といえます。また、この大会では車検を行うのですが、本校理工科3年(当時)の原田佑也君(現㈱ウッド



図3 車検合格証のシール

ワン勤務)のデザインした絵柄(広島県大会ではポスターとして採用)が車検合格証のシール(図3)として活用されました。

このフェアでは他にも、玉田教頭と理工科2名(古田正也君、濱村隆央君)が警備係として、広島会場で参加しました。

おわりに

参加した生徒に仕事を終えた後の感想を聞いたところ、「全国から集まった高校生の作品を見て、非常に勉強になった。」と喜んでいました。私自身も全国のものづくりのレベルの高さに、かなりの刺激を受けました。一昨年のテレビ番組の中でのことですが、夏の甲子園で全国制覇を成し遂げた常総

学院高等学校野球部監督の木内先生が「このような大舞台でプレーすることで、生徒が見違えるように成長する。素晴らしい教育の場である。」というような趣旨のことを話されていました。今回のように全国規模の大会を見たり、参加したりして、さまざまなことを考えさせられたり、いろんなことを学ぶ体験は大切であると痛感しました。今後の教育活動に大変参考になり、意欲をかき立てられる貴重な場に参加できたことに、感謝の気持ちで一杯です。

最後に、十数年前に、今回のロボット競技大会に参加するきっかけをいただいた本校の元機械科科長、故佐々木陸雄先生に、お礼を申し上げると共に、ご冥福をお祈りいたします。



写真1 全国高等学校ロボット競技大会